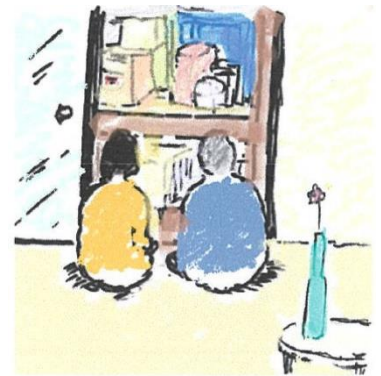


◎ボランティアだからできる あったかなひととき◎

私は、平日は仕事をしており、なかなかボランティアの依頼の電話に出られなかったり、仕事が重なってボランティアができなかったりすることもあります。ご依頼者の都合が合えば、土・日や、仕事の帰りがけにボランティアをさせていただいております。時には安心コールからの着信があって、かけなおすと「ほかの方が見つけて、行ってもらいました。」と聞き、ホッとすることもあります。私じゃなくても、だれかがつながってくれたという「ホッ」と感もありました。できるときに、ちょっとだけでも、力を寄せ合って…、だから長年続けてこられたのかなと思います。

忘れられない体験があります。依頼内容は押入れの荷物の片づけだったと思います。奥様がなくなられて、公営住宅に、お一人暮らしをされていた高齢男性でした。もうすぐお引越しをなさるようで、押入れにずっと入っていた亡き奥様の荷物を片付ける仕事でした。他のお部屋は、引越しに向け相当片づけが進んでいたようですが、この押入れはかなり残っていました。おひとりで片付けるのは、おそらくしんどかったのでしょう。

いっしょに並んで一つ一つ包みをあけ、箱を開き、残すもの廃棄するものと仕分けていきます。お二人のアルバムや奥様の趣味のお道具、季節の生活を彩る衣類や日用品が次々と出てきます。男性もいろいろと説明をしてくれます。「いい思い出ばかり…。奥様もきっと天国で、うれしく聞いていらっしゃるでしょうね。」などと話も弾みます。引越し業者なら、作業はどんどん進むのかもしれませんが、幸いにしてボランティアです！！3時間くらいだったか、ひとつひとつ思い出をひもときながら、片づけを進めていきました。ごみの集積場に持っていく仕事は、男性がなさるとのことでしたが、「これも、また、安心コールボランティアにお願いしたらよいですよ。」と伝え、「新しい生活に幸多かれ」と願いつつ退出し、安心コールに終了報告の電話をしました。



私は、遠方に住む母と、こんな温かな時間をつくりたいな、今日は家に帰ったら、母に「どげんしとる？変わりなか？」と、電話してみようと思い帰路に着きました。